



共同災害看護学専攻 博士課程
(DNGL:災害看護グローバルリーダー養成プログラム)

平成26年度開講科目シラバス 1回生用



高知県立大学
University of Kochi



兵庫県立大学
UNIVERSITY OF HYOGO



千葉大学
CHIBA UNIVERSITY



TMDU
東京医科歯科大学



日本赤十字看護大学

1 回生開講科目

標準修業年限の5年以上在籍し、修了要件50単位以上の単位を修得した者で必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び論文の内容や専門分野に関する口述ないし筆記試験に合格することを要件とする。

修了要件50単位のうち、40単位は必修であり、10単位は選択科目または選択必修科目から修得すること。選択必修科目は「災害グローバルリーダーに必要な学際的な科目群」から6単位、「災害看護学に関する科目群」から2単位を修得すること。

また、それぞれの構成大学において10単位以上を修得すること。

授業科目名	看護研究方法 Introduction to Nursing Research Methods	必修の区分	必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	野嶋佐由美、中山洋子 神原咲子、中野綾美	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	【講義目的】実践の論拠となる知識の活用の仕方を学ぶと同時に、知識創生過程の適切性・信頼性を分析することができる能力を養う。 【到達目標】・看護研究の研究過程、基本的な研究デザインについて学び、それぞれの研究デザインの研究を批判的に分析することができる。 ・研究課題に対して適切な研究デザインを立てることができる。 ・研究と実践との関係を理解し、研究を実践に活用することができる。		
講義内容・授業計画	1)～2): 理論と実践と研究の関連を踏まえて、看護学の発展にとって看護研究が果たす役割について学習する。基本的な4つの研究の問いのレベルと研究デザインとの関係を踏まえて、実践—研究—理論の関係、研究過程（理論と概念の関係、概念の操作化、測定方法等）について学ぶ。（野嶋佐由美） 3)～4): 現象と Inquiry, Research Question との関係、4つの研究デザインと Research Question との関係について学習し、各自が関心ある現象から Research Question を導く過程を具体的に学ぶ。（中野綾美） 5)～8): 研究のステップについて学ぶとともに、研究を批判的に分析する枠組みと方法について学習する。また、研究デザインのうち質的研究方法を用いた文献を取り上げ、研究方法を学んだうえで、Research critique を行う。（中山洋子） 9)～12): 疫学的思考及び方法を理解し、量的調査及び分析方法について、ダミーサンプルを用いて具体的な方法、注意点を学ぶ。その実践での事例に対して Research critique を行う。（神原咲子） 13)～15): 実験研究、準実験研究、Evidence Based Nursing (EBN)、研究成果の活用について学習したうえで、実験研究・準実験研究の Research critique を行う。（野嶋佐由美）		
テキスト	・ポーリット, D.F. & ベック, C.T. 著, 近藤潤子監訳, 看護研究: 原理と方法, 第2版, 医学書院, 2010. ・ホロウェイ, I. & ウィーラー, S. 著, 野口 美和子監訳, ナースのための質的研究入門: 研究方法から論文作成まで, 第2版, 医学書院, 2006. ・Hully, S. B. 他著, 木原雅子・木原正博訳, 医学的研究デザイン, 第3版, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2009. ・Kotz, M. H. 著, 木原雅子・木原正博訳, 医学的介入の研究デザインと統計, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2013.		
参考文献	・Crombie, I., The Pocket Guide to Critical Appraisal, Willey-Blackwell, 1996. ・Rothman, K. J., Epidemiology: An Introduction, Oxford University Press, 2012. ・Corbin, J. & Strauss, A. 著, 操 華子・森岡 崇訳, 質的研究の基礎: グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順, 第3版, 医学書院, 2012.		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件			
備考			

授業科目名	理論看護学 I Theories in Nursing I	必修の区分	必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	和住 淑子 山本 利江	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント (火～土)	連絡先	wazumi@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 看護学の発達過程を歴史的・方法的・構造的に理解し、諸科学との連関を踏まえつつ、災害看護学を新たな学問として体系化する基礎的能力を養う。 【到達目標】 1. 看護理論とは何かがわかり、その構造分析の方法が理解できる。 2. 既存の看護諸理論の特徴から、看護学の発達過程を、歴史的・方法的・構造的にとらえることができる。 3. 災害看護学を新たな学問として体系化する意義と方法について理解できる。		
講義内容・授業計画	【第1・2回】和住淑子 看護の理論開発に関する諸概念及び既存の看護諸理論の論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析する方法について講義する。 【第3・4回】山本利江 看護理論の看護実践への適用と意義について、具体的事例をもとに講義する。 【第5・6回】学生による課題発表と討議① 和住淑子 山本利江 担当学生は、既存の看護諸理論の中から1つの理論をとりあげ、論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析し、実践への適用例を提示する。発表に基づき、学生間で討議をすすめる。 【第7・8回】学生による課題発表と討議② 和住淑子 山本利江 【第9・10回】学生による課題発表と討議③ 和住淑子 山本利江 【第11・12回】学生による課題発表と討議④ 和住淑子 山本利江 【第13・14回】学生による課題発表と討議⑤ 和住淑子 山本利江 【第15回】課題発表のまとめと災害看護学の体系化に向けた討議 和住 山本		
テキスト	F. ナイチンゲール著、湯楨ます他訳、看護覚え書、改訳第7版、現代社、2011. Alligood, M. R., Tomey, A. M., Nursing Theorists and Their Work, 7 th ed, Mosby, 2010.		
参考文献	正木治恵、酒井郁子編、看護理論の活用 看護実践の問題解決のために、医歯薬出版、2012.		
成績評価	授業への参加状況、課題レポートの成果から総合的に評価する。 授業への出席状況（レスポンスシートの提出）、発表、討議への参加状況、発表40%、課題レポート 60% 課題レポートについて 課題：既存の看護諸理論の中から1つの理論をとりあげ、論理構成の特徴や理論家の経歴・時代背景から、理論開発の過程を分析し、実践への適用例を提示する。これらに基づき、選択した理論の実践上の意義、看護学上の意義について、自身の考えを述べる。（提出期限：授業終了後1週間以内）		
履修上の注意・履修要件	担当課題発表の前には、複数の学生の共同作業による発表準備が必要		
備考			

授業科目名	看護倫理 Ethics in Nursing	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業と集合討議
講師名	片田 範子	所属	兵庫県立大学看護学研究科教授
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	n_katada@cnas.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】規範倫理・応用倫理と看護倫理の関係を学び、現場で遭遇する倫理的課題について、自らの立ち位置を理解する。 【到達目標】・倫理的課題が浮上する社会的背景について歴史や文化を踏まえ討議することができる。 ・倫理的課題が生ずる状況の中で、人それぞれの立場での価値観や意見の違いのために生ずる葛藤について、分析することが出来る。		
講義内容・授業計画	【学習内容】 1) それぞれの学生自身が持つ看護倫理についての考え方を述べ、学習する基本的立ち位置を共有する。(オリエンテーションを含む) 2-3) 規範倫理学と価値の明確化 個人／組織／社会／文化の流れ * 文献を検索しそれぞれの規範倫理学の論点を討議する。 4-5) 応用倫理と看護倫理の歴史的流れ 生命／医学／医療／看護／個人 * 各時代の中で、応用倫理学が台頭する背景や課題について焦点を当てて討議を進める。 6-7) 医療で用いられる倫理原則 * 各原則についてこれまでの実践で生じた文化的に異なる現象から説明し、討議する。Beneficence/Justice/Autonomy/Veracity/Fidelity 8) 看護実践にかかわる倫理的概念の整理 Advocacy/Accountability/Responsibility/Caring/Cooperation 9) 看護が直面する倫理問題とケース分析の方法 * 分析の方法を学び看護問題と倫理問題について討議する。 10) 研究倫理と研究対象となる人の権利の擁護 * 科学者の倫理、看護学研究者の倫理、人を対象とした研究の倫理についてのレビューを行い、研究のそれぞれにある倫理的視点を学ぶ。 11-15) 課題検討と発表（残りのコマをグループワークと発表に用いる：ここに至るまでの遠隔での討議を踏まえ、集合対面式時間を設けるかどうかを決定する） * 現実的社会問題、災害時の課題など、2名ずつテーマを選択し、そのテーマに含まれる主要な倫理問題・概念について基本的考え方と最近の動向をまとめる。テーマの典型例をケース分析し、発表する。全体討議において、各学生の背景や領域を越えて共通あるいは異なる問題の捉え方について考察する。討議後各自のレポートとして提出する。		
テキスト	サラ T.フライ&メガン・ジェーン・ジョンストン著. 看護実践の倫理第3版 Ethics in Nursing Practice, International Council of Nurses, 2009. (翻訳版、日本看護協会出版会)		
参考文献	Davis, AJ; Tschudin, V.; Raeve, L. Eds. 看護倫理を教える・学ぶ-倫理教育の視点と方法- 監訳者 小西恵美子, 日本看護協会出版会, 2008. テーマ毎に検索し、最新の知見の集積を行う。		
成績評価	プレゼンテーション、作成された資料、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	基本的に授業はゼミ形式で行い異なる大学の2名ごとに課題を選択し、事前準備・発表・全体討議を行いながら進める。		
備考	各自が集積した最新の文献リストは最終クラス全体で共有する。		

授業科目名	看護情報統計学 Nursing Information Statistics	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名・所属	緒方泰子・東京医科歯科大学大学院 奥村泰之・(財)医療経済研究・社会保険福祉協会医療経済研究機構 米倉佑貴・東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センター		
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	yogata.gh@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】災害看護の領域におけるエキスパートとしての活動に用いることができるよう統計に関する基本的知識を学び、看護・医療および近接領域での実践・研究における統計手法の応用について理解するとともに、こうした実践・研究を行う上で必要となる基本的手法からやや高度な手法を含めて修得する。 【到達目標】 ・統計に関する基本的知識を学ぶ。 ・看護・医療および近接領域での実践・研究における統計手法の用いられ方について理解する。 ・演習を通じて、看護における実践・研究に応用できる統計解析手法を修得する。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 統計学の基礎知識を学んだ上で、実際のデータを用いて統計解析を行って、その結果をわかりやすく第三者に伝えることを通じて、看護実践や研究に必要な統計解析の知識・技術を修得する。 【学習内容】 1-2) オリエンテーション、統計学の基礎知識 3-5) 無作為化比較試験、リスク差、リスク比、信頼区間、系統的展望、メタ・アナリシス 6-8) 統計解析の基礎（Rの概要、Rコマンド、データの読み込み、加工、集計） 9-12) 作図、検定（差の検定など）、相関分析、分散分析、回帰分析、色々なパッケージの利用 13) 論文の結果の再現 14-15) プレゼンテーション 統計学の基礎知識について学び、Rを用いて統計解析を行う。結果をまとめて、クラス発表を行う。 ※学習順序は、変更されることがある。		
テキスト	随時紹介する。		
参考文献	・木原雅子・木原正博（翻訳）．医学的研究のデザイン－研究の質を高める疫学的アプローチ－第3版，メディカルサイエンスインターナショナル，2009． ・丹後 俊郎著．統計学のセンス－デザインする視点・データを見る目，朝倉書店，1998． ・石井トク・野口恭子編著．看護の倫理資料集，丸善株式会社，2004． ・福原 俊一．リサーチ・クエスションの作り方，特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構，2008． ・CRT-web: http://www.crt-web.com/ ・Michael J. Crawley 著，野間口謙太郎・菊池泰樹訳「統計学: Rを用いた入門書」，共立出版，2008 ・中澤港，Rによる統計解析の基礎，http://minato.sip21c.org/statlib/stat.pdf		
成績評価	授業への参加状況、学習状況、プレゼンテーションや課題レポートの内容等にもとづいて行う。		

履修上の注意・履修要件	受講者は各自一台のノート PC（計算機能を付加できる性能を有すること）を準備しておくこと。
備考	授業内容や順序は、変更する場合がある。

授業科目名	看護研究方法論Ⅱ (エスノグラフィー) Nursing Research MethodsⅡ (Ethnography)	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	筒井 真優美	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	tsutsui@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 看護学における研究の意味、質的研究の世界観、エスノグラフィー、民族看護学の研究方法について学ぶ。 【到達目標】 ・看護学におけるエスノグラフィー、民族看護学の位置づけと研究方法を理解する。 ・フィールドの文化を理解し、フィールドワークにあたっての準備をすることが出来る。 ・目的にあったフィールドワークを実施することが出来る。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 看護研究におけるエスノグラフィー、民族看護学を理解し、フィールドワークを実施するための準備、方法を検討したうえで、フィールドワークを実施するとともにその課題を明らかにする。 【講義内容・計画】 1. 看護学における看護研究の位置づけ、質的研究・量的研究の世界観、エスノグラフィーおよび民族看護学の歴史・研究方法・倫理的課題など 2. フィールドワークを実施するための準備、課題など 3. フィールドワークを実施 4. 〃 5. フィールドノーツの分析および課題の討議 6. 〃 7. エスノグラフィー、民族看護学のまとめ、課題などの討議 8. 〃 実際にフィールドワークを実施し、フィールドノーツを書き、目的に合わせた分析を行い、課題などをクラスで討議する。		
テキスト	Emerson, R., Fretz, R., & Shaw, L. (1995)/佐藤郁哉・好井裕明・山田富秋訳(1998). <u>方法としてのフィールドノート</u>. 新曜社. Leininger, M. M. (1992)/稲岡文昭監訳(1995). <u>レイニンガー看護論</u>. 医学書院.		
参考文献	Bogdan, R. C. & Biklen, S. K. (2006). <u>Qualitative research for education: An introduction to theory and methods (5th ed.)</u>. Boston, MA: Allyn & Bacon. Inc. Burns, N. & Grove, S. K. (2005). <u>The practice of nursing research (5th ed.)</u>. Philadelphia, PA: W. B. Saunders Company. Denzin, N. K. & Lincoln, Y. S. (2005). <u>The SAGE handbook of qualitative research(3rd ed.)</u>. Thousand Oaks, CA: SAGE. Flick, U. (1995) /小田博志・山本則子・春日常・宮地尚子 (2002) . <u>質的研究入門</u>. 春秋社.		

	Gubrium, J. F. & Holstein, J. A. (2001). <u>Handbook of interview research: Context & method</u>. Thousand Oaks, CA: SAGE. Hinshaw, A. S., Feetham, S. L., & Shaver, J. L. F. (1999). <u>Handbook of clinical nursing research</u>. Thousand Oaks, CA: SAGE. Leininger, M. M. (Ed.). (1992). <u>Culture care diversity & universality: A theory of nursing</u>. New York: National League for Nursing press. Lincoln, Y. S. & Guba, E. G. (1985). <u>Naturalistic inquiry</u>. Newbury Park, CA: Sage. 箕浦康子(1999). <u>フィールドワークの技法と実際</u>. ミネルヴァ書房. 宮本勝・清水芳見(1999). <u>文化人類学講義</u>. 八千代出版. Munhall, P. L. (2007). <u>Nursing research: A qualitative perspective (4th ed.)</u>. Sudbury, MA: Jones & Bartlett Publishers. 佐藤郁哉(1992). <u>フィールドワーク</u>. 新曜社. 柴山真琴(2006). <u>子どもエスノグラフィー入門</u>. 新曜社. Streubert, H. J. & Carpenter, D. R. (2011). <u>Qualitative research in nursing (5th ed.)</u>. Philadelphia, PA: Lippincott. やまだようこ(2000). <u>人生を物語るー生成のライフストーリーー</u>. ミネルヴァ書房. やまだようこ(2007). <u>質的心理学の研究ー語りをきくー</u>. 新曜社.
成績評価	クラスの参加度 50%、プレゼンテーション 50%
履修上の注意・履修要件	
備考	

授業科目名	看護研究方法論Ⅳ (グラウンデッドセオリー) Nursing Research Methods Ⅳ (Grounded Theory)	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	井上智子 戈木クレイグヒル滋子 山本則子 小原 泉	所属	東京医科歯科大学 慶應義塾大学 東京大学 自治医科大学
オフィスアワー・場所	メール	連絡先	tinoue.cc@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的と到達目標】 グラウンデッドセオリー ・ 質的研究の特性と基礎を学ぶ。 ・ グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集，データ分析の概要を学ぶ。 ・ グラウンデッドセオリーによる研究実践と論文執筆の概要を知る		
講義内容・授業計画	【学習内容】 1) ガイダンス：授業科目の概要（井上） 2) 看護学における質的研究（戈木クレイグヒル） 3) グラウンデッド・セオリー・アプローチの概要（戈木クレイグヒル） 4) 質的研究とグラウンデッドセオリーの概要（山本） 5) 実際の分析過程と論文の執筆（山本） 6) グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集の実際ーリッチなデータを収集する方法ー（小原） 7) グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ分析の実際ーデータから現象の構造とプロセスを説明する方法ー（小原） 8) まとめ（井上）		
テキスト・参考文献	・ Beck , C.T. Ed.(2013) Routledge International Handbook of Qualitative Nursing Research, Routledge. ・ Corbin, J. & Strauss, A. (2008) Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory Approach, 3rd ed., SAGE. ・ 能智正博(2011) 質的研究法, 東京大学出版会. ・ 戈木クレイグヒル滋子 (2006) グラウンデッド・セオリー・アプローチ：理論を生み出すまで, 新曜社. ・ 戈木クレイグヒル滋子 (2008) 実践 グラウンデッド・セオリー・アプローチ：現象をとらえる, 新曜社. ・ 戈木クレイグヒル滋子編著 (2013) 質的研究法ゼミナール：グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ (第2版), 医学書院. ・ 戈木クレイグヒル滋子 (2014) グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いたデータ収集, 新曜社.		
成績評価	授業参加度、課題レポート等、総合的評価を行う。		
履修上の注意・履修要件	事前学習、事前課題等はその都度連絡する。		
備考			

授業科目名	看護研究方法論Ⅴ (現象学的研究方法) Nursing Research Methods Ⅴ (Phenomenology)	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	中山洋子, 吉川 孝	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所		連絡先	nakayama@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】現象学の歴史的・哲学的潮流、現象学の基本的な前提を理解し、そのうえで、現象把握の方法、看護学研究方法としての現象学的研究方法を学ぶ。 【到達目標】 ・現象学の哲学的な基盤について理解することができる。 ・現象学を基盤とした現象の捉え方、物の見方、考え方を理解することができる。 ・研究課題と現象学的研究方法との関連を理解することができる。 ・現象学的研究方法を用いた研究を Critique することができる。		
講義内容・授業計画	【第1回～第3回】(吉川 孝) 1) 歴史的・哲学的潮流からみた現象学の位置づけ 2) 「現象学とは何か」という現象学の哲学的な基盤 3) 現象学の動向と学派によるものの見方、考え方の違い 【第4回～第6回】(中山洋子) 4) 看護学における質的研究方法としての現象学の位置づけ 5) 看護学研究方法としての現象学的アプローチ 6) 研究課題と現象学的研究方法(研究デザイン)の選択 【第7回・第8回】(中山洋子・吉川 孝) 現象学的方法を用いた研究の Critique の方法とその実際		
テキスト	テキストは用いないが、事前学習のための文献を提示する。		
参考文献	・木田 元, 現象学, 岩波書店, 1970. ・Spiegelberg, H. 著, 立松弘孝訳, 現象学運動 上・下, 世界書院, 2000. ・Benner, P. & Wrubel, J. 著, 難波卓志訳: 現象学的人間論と看護, 医学書院, 1999. ・Giorgi, A. 著, 吉田章宏訳: 心理学における現象学的アプローチ: 理論・歴史・方法・実践, 新曜社, 2013. ・Benner, P. 他著, 相良 - ローゼマイヤーみはる, 他訳, 解釈的現象学: 健康と病気における身体性・ケアリング・倫理, 医歯薬出版, 2006. ・Cohen, M. Z. 他著, 大久保功子訳, 解釈学的現象学による看護研究: インタビュー事例を用いた実践ガイド, 日本看護協会出版会, 2005. ・グレッグ美鈴他編著, よくわかる質的研究の進め方・まとめ方: 看護研究のエキスパートをめざして医歯薬出版株式会社, 2007.		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	事前学習の課題を提示し、授業では討論を中心に展開していく。		
備考			

授業科目名	環境防災学 Environmental Disaster Studies	必修の区分	選択必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	近藤昭彦 大村 誠	所属	千葉大学 高知県立大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	kondoh@faculty.chiba-u.jp omura@cc.u-kochi.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】地球科学に関する幅広い知識を利用して、地域における開発・保全・防災・環境問題に取り組むための学術的基礎素養と、多様な場における問題解決に応用できる基礎的能力を身につける。 【到達目標】災害発生と自然・都市環境との関連を学び、地域減災の方法、災害からの復興計画の考え方や実践の方法について提案できる。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 主に自然災害を中心に、災害を引き起こす外力であるハザードの性質を理解し、それを災害（ディザスター）にしないための経験的知識を習得する。 【学習内容】 (近藤昭彦／8回) 地震、豪雨等のハザードと地域ごとに異なる土地の性質（素因）に関する基礎的知識に基づき、災害の発生機構を理解することにより、発災時の行動のあり方、復興計画に対する指針、平穏時における備え、等について過去の災害事例に基づき講義を行う。 (大村誠／7回) 近未来の日本で災害看護が備える大自然災害の事例として、おもに関西での直下型地震と南海トラフ巨大地震を取り上げ、地球科学的、社会科学的視点から講義を行う。世界の地殻活動との関連や地域環境（自然環境、都市・村落環境、社会環境など）に着目して、災害と防災対応の多様さを考察する。		
テキスト	必要に応じて WEB で資料を公開。		
参考文献	(近藤) 水谷武司. 自然災害の予測と対策-地形・地盤条件を基軸として一、朝倉書店、2012. (大村) 里村幹夫（編）. 地震防災、学術図書出版 2008.		
成績評価	出席、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件			
備考			

授業科目名	専門職連携実践論 Professional Collaboration and Practice Theory	必修の区分	選択必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	酒井郁子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	火曜日 I, II 限	連絡先	ikusakai@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】組織の協働的实践、用いられている戦略、課題、解決法などについて比較検討でき改善するための基本的知識技術を理解する。 【到達目標】 ・ IPE に価値を置き、他職種の意見や見方を尊重する態度を理解する ・ 各専門職の役割と関係、協働を促進している状況について国レベルから地域レベルまで理解できる。 ・ 協働を改善するための戦略や理論モデルを理解できる ・ 他職種、自組織において改善の必要性がある協働実践を判別し、改善策を企画実施するためのスキルを理解する。 ・ 特定のケア状況に合わせた多機関との共同戦略を選び、実行修正するためのスキルを理解する		
講義内容・授業計画	【ねらい】 IPW に関連する概念と類型、理論枠組みを概説する。また IPW の改善を目指した教育的介入、実践介入、組織管理について論述し、チームパフォーマンスの評価方法について概観する。 【学習内容】 ・ オリエンテーション、IP 実践能力を理解する（1-4 回） IPE の歴史、必要となった背景、これから解決すべき社会的課題、IP 実践能力の獲得過程などについて、自己学習および講義をもとに討議する。 ・ 協働実践を改善するための態度と知識を理解する（5-10 回） チームビルディング、組織開発、組織間連携、コミュニケーション、倫理的態度、プロフェッショナリズムに関する自己学習および講義をもとに討議する ・ 他職種と協働してサービス改善を行うための知識、理論、戦略を理解する（11-15 回） 講義をもとに自己の IPW 実践事例を分析、評価し、討議する		
テキスト	講義開始前に文献リストを提示する		
参考文献	講義開始前に文献リストを提示する		
成績評価	授業への参加 60%(自己学習をもとに積極的に発言することを評価する)。最終レポート 40%（レポート課題：自己の専門職連携実践能力の自己評価と今後の課題）		
履修上の注意・履修要件	災害時 IP 演習の履修希望者は本科目を履修することが望ましい		
備考			

授業科目名	災害医療学 Disaster Medical Science	必修の区分	選択必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	小原 真理子 丸山 嘉一 上田 耕蔵 小淵 岳恒	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師
オフィスアワー・場所	右記メールアドレスに連絡	連絡先	小原真理子 ohara-ma@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害医療活動に取り組むための医学的基礎素養と、多様な災害現場の災害医療体制の立ち上げに応用できる基礎的能力について学ぶ。 【到達目標】 1. 災害医療学と災害看護学との関連、活動上の連携について理解する。 2. 災害の種類、災害サイクル、災害現場に伴う医療活動に必要な知識について説明できる。 3. 災害医療コーディネーターの役割について理解し、看護コーディネーターのあり方を構築する。 4. 災害時の外科、被曝医療の病態や治療の基本について理解する。 5. 災害関連死の背景と病態、予防対策について理解する。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 既に有している災害医療活動に関する基礎的知識をさらに深め、災害医療活動の場面で、看護の視点からリーダーとして役割を行使できるように実践的能力を養う。 【講義内容】 1. 災害医療学の授業展開オリエンテーション、災害医療学と災害看護学との関連、活動上の連携（4/18 小原） 2. 災害医療活動現場の特徴とその構造（4/18①） 3. 災害種類別の疾病構造、サイクル及び災害現場に伴う疾病構造（4/25②） 4. 医療対応である災害医療の3T、3Tを支えるCSCAの仕組み（4/25③） 5. 災害医療コーディネーターの役割と課題（5/9④） 6. シミュレーション：局所災害と大規模災害におけるCSCA3Tによる医療対応（5/9⑤） 7. 災害時における危機的疾患と救急外科的対応Ⅰ（5/16 丸山①） 8. 災害時における危機的疾患と救急外科的対応Ⅱ（5/16 丸山②） 9. 被災地における巡回診療による医療ニーズの発見と対応（5/23 丸山③） 10. シミュレーション：ACLSシミュレーターによる危機的状況のフィジカルアセスメントと救急対応（5/23 丸山④） 11. 被曝医療の概念、東日本大震災における活動、住民対応（5/30 小淵①） 12. 演習：被曝医療活動上、必要な放射線測定器の使用方法、ガウン等の着用方法		

	(5/30 小淵②) 13. 災害関連死とは、法律上の意味、阪神淡路大震災と東日本大震災との比較 (6/12 上田①) 14. 災害関連死のメカニズム：避難生活との関連、避難所と自宅避難の違い (6/12 上田②) 15. 災害関連死の予防、看護・介護との連携 (6/26 上田③)
テキスト	事前に授業関連の資料を配布する予定。
参考文献	・東日本大震災 石巻災害医療の全記録：石井正，ブルーバックス，2012. ・第3版 MIMMS 大事故災害への医療対応：MIMMS 日本委員会訳，永井書店、2012. ・災害医学：山本保博等，NPO 災害人道医療支援会，2011. ・War Surgery:ICRC, 2011. ・Nuclear, Chemical, and Biological Terrorism, Emergency Response And Public Protection: Mark E. Byrness, etc., Lewis Publishers. ・基礎からわかる被曝医療ガイド：箱崎幸也等，日経メディカル開発，2011. ・低線量・内部被曝の危険性：編医療問題研究会，プライム，2011. ・東日本大震災 医療と介護に何が起こったのか／震災関連死を減らすために：上田耕蔵，萌文社，2012. ・お前らもはよ逃げてくれ、阪神淡路大震災 神戸医療生協の活動記録：神戸医療生活協同組合編（ネット上で公開）
成績評価	各講師から出題される筆記試験、または課題レポート、授業への参加態度等で総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	・オムニバス授業であるが、各授業内容の特性と共に、災害医療学の全体像を捉える。シミュレーションや演習に積極的に参加する。
備考	・災害医療活動に関連する実話の著書を数冊読破し、授業に望む。 日頃から、災害について新聞やホームページ、TV等を通して、被害の大きさ、被災者、医療救護活動の実際について、情報収集を得ておく。

授業科目名	災害情報学 Disaster Information Science	必修の区分	選択必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	相河 聡	所属	兵庫県立大学工学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	aikawa@eng.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】人間社会における情報の意味や役割、通信の方法など ICT 技術の基礎を学ぶと同時に、災害時の情報・通信の考え方やあり方などを学習する。特に災害時に重要となる無線通信の概要について実例をもとに学ぶ。 【到達目標】・人間社会においての情報の意味について理解する。 ・情報の伝達において発生する問題点を理解し、災害時における情報伝達のあり方について考察できる。 ・ICT 技術を用いた情報通信に関する知識を身に着け、災害時における情報伝達の方法について検討できる。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 人間社会における情報の意味と伝達手段のもつ課題を理解し、災害時などの困難な状況においても情報通信システムを使いこなす能力をみにつける。 【学習内容】 (1) 情報・通信とは何か、情報の3つの側面、通信のモデル化 第1・2回 (2) メッセージとメタメッセージ、災害時の情報伝達例 第3・4回 (3) 機械的情報、情報量 第5・6回 (4) デジタルシステム（記号・符号・信号）第7回 (5) 通信技術 第8・9回 (6) 無線通信システム（災害通信・携帯電話）第10・11回 (7) 情報通信技術の歴史 第12回 (8) 情報通信市場 第13回 (9) 通信に関する法律 第14・15回		
テキスト			
参考文献	・西垣通著『基礎情報学』NTT 出版, 2004. ・矢守克也著『巨大災害のリスクコミュニケーション』ミネルヴァ書房, 2013. ・相河聡著『電波法概説 第2版』森北出版, 2012.		
成績評価	クラス参加度、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件			
備考			

授業科目名	災害心理学 Disaster Psychology	必修の区分	選択必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	広瀬 弘忠	所属	兵庫県立大学非常勤講師
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	
講義目的及び到達目標	【講義目的】災害時や事故時など緊急事態に直面したときの人間の心理や行動を集合状況として理解する。 【到達目標】看護学の専門家として知っておくべき緊急時の人間理解と陥りやすい罠を避ける技術を習得する。		
講義内容・授業計画	【授業内容】災害時の人間の行動を、心理学の根幹から説明し、最終的には災害のライフサイクルに合わせた人間行動の特性を明らかにする。 【授業計画】 1. 災害とは何か 2. 災害心理学とは何か 3. 人と災害との出会い 4. 災害のライフサイクルと被災心理 5. 人間心理第1の罠—正常性バイアス 6. 人間心理第2の罠—同調性バイアス 7. 人間心理第3の罠—愛他行動 8. 人間心理第4の罠—エクスパート・エラー 9. 人間心理第5の罠—凍りつき症候群 10. 災害被害からの回復過程 11. 災害被害のトラウマ 12. 復興と復旧 13. 災害による破壊がもたらすもの 14. 災害後の社会 15. あらためて災害とは何かを考える		
テキスト	広瀬弘忠著「人はなぜ逃げ遅れるのか」集英社、広瀬弘忠著「生存のための災害学」新曜社		
参考文献	広瀬弘忠著「生と死の極限心理」講談社、広瀬弘忠著「きちんと逃げる」アスペクト		
成績評価	出席とレポート		
履修上の注意・履修要件	災害心理学関連の知識を身につける		
備考			

授業科目名	災害と文化 Disaster and Culture	必修の区分	選択必修
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	前期
授業種別	講義（フィールドワーク）	授業方法	第1～5回：遠隔授業 第6～8回：対面・集合（9月4、5日予定）
講師名	正木治恵 岩崎寛 望月由紀	所属	千葉大学大学院看護学研究科 千葉大学大学院園芸学研究科 千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	hmasaki@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】災害支援に必要な文化的視点を理解し、文化的感受性を高める。また、関連する概念や理論について概観すると共に、文化的アプローチについて実践例をもとに理解を深める。 【到達目標】災害支援に必要なとなる文化的視点と感受性が獲得できる。被災地域の文化を取り込んだケア、コミュニケーションができる。		
講義内容・授業計画	オムニバス方式（正木治恵／3回、望月由紀／2回、岩崎寛／3回） 【遠隔授業】 1) 災害看護における文化的ケアの基礎 2) 災害看護における文化の考え方と基礎概念 3) 実践例をもとにした文化的ケアの方法(1) 4) 実践例をもとにした文化的ケアの方法(2) 5) 災害時における文化的ケアの海外との比較 【対面・集合】 6) 被災地域の風土や文化をツールとしてケアに取り込む方法 7) コミュニケーションツールとして植物を用いたフィールドワーク(1) 8) コミュニケーションツールとして植物を用いたフィールドワーク(2)		
テキスト			
参考文献	正木担当回：Christie W. Kiefer 著、木下康仁訳：文化と看護のアクションリサーチ 保健医療への人類学的アプローチ、医学書院、2010 岩崎担当回：広井良典編：「環境と福祉」の統合、有斐閣、2008 望月担当回：マデリン M. レイニンガー：レイニンガー看護学、医学書院、1995		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	岩崎担当回(第6～8回)では植物を用いたフィールドワークを行うため、作業に適した服装、靴で参加すること。		
備考			

授業科目名	災害看護活動論 I Disaster Nursing Activity Theory I	必修の区分	必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	佐々木吉子 ¹⁾ 、大友康裕 ¹⁾ 、 三浦英恵 ¹⁾ 、山崎達枝 ²⁾ 、 石井美恵子 ²⁾ 、石田千絵 ²⁾ 、 川谷陽子 ²⁾	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 非常勤講師
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び 到達目標	【講義目的】 災害超急性期～亜急性期における災害種類別傷病者の疾病構造、災害医療対応の構造と機能、医療対応における看護の役割を理解し、看護リーダーに必要な基盤知識を習得する。 【到達目標】 1) 災害超急性期～亜急性期における災害種類別傷病者の疾病構造と対応の原則がわかる。 2) 災害発生に固有な危機的疾患に対する救命救急活動の概要と看護の役割がわかる。 3) 被災しつつ、負傷者の受け入れや避難先として求められる医療施設の役割がわかる。 4) 災害現場、避難所における健康問題と生活支援、地域医療との連携システムがわかる。		
講義内容・ 授業計画	【ねらい】 災害超急性期から亜急性期における災害種類別傷病者の疾病構造と医療対応の原則を理解し、これまでの活動実績から災害医療活動において残存する問題を抽出し、看護リーダーに期待される役割と取り組むべき課題をアセスメントする能力を養う。 【学習内容】※4/21,28,5/12,19,26,6/9 は 2 コマ(Ⅳ・Ⅴ)運営、4/7,6/2,16,23,7/7,28 は休講 第 1 回 4/14Ⅳ (佐々木)：オリエンテーション、災害急性期～亜急性期における災害種類別傷病者の疾病構造の特徴、人々にもたらされる健康問題と生活への影響 第 2 回 4/21Ⅳ (大友)：わが国の災害医療体制（災害拠点病院、広域災害救急医療情報システム、広域医療搬送、DMAT など） 第 3 回 4/21Ⅴ (大友)：トリアージの概念 第 4 回 4/28Ⅳ (大友)：国外大規模災害発生時の国際緊急援助（JMTDR を中心に） 第 5 回 4/28Ⅴ (大友)：主な NBC 災害の概要と病院における医療活動 第 6・7 回 5/12Ⅳ・Ⅴ (石田)：地下鉄サリン事件での実践例から考察する特殊災害急性期の医療・看護活動の原則と発災に向けた備え 第 8・9 回 5/19Ⅳ・Ⅴ (川谷)：DMAT 活動における看護活動と課題（看護師独自の活動や DMAT に特徴的な看護活動：航空搬送など） 第 10・11 回 5/26Ⅳ・Ⅴ (石井)：国内災害における急性期の看護活動、特に地域保健政策モニタリングやプログラム開発（支援展開の計画と実践）、海外の異文化環境における災害急性期の看護支援活動の実践 第 12・13 回 6/9Ⅳ・Ⅴ (山崎)：災害支援ネットワークのシステムと機能、発災時における看護職の役割と多職種連携の実践、災害支援者の心理プロセス、今後の展望 第 14 回 6/30Ⅳ (三浦)：災害が慢性疾患患者にもたらす健康問題と急～亜急性期における支援		

	第 15 回 7/14IV（佐々木、三浦）：ディスカッション 講義や自己学習で学んだことを通して、災害急性期における看護の機能および看護リーダーの役割についてディスカッションを行う
テキスト・文献	石井美恵子（2013）．幸せをつくる、ナースの私にできること.廣済堂出版. 國井修（2012）．国家救援医 私は破綻国家の医師になった.角川書店. 國井修編集（2012）．災害時の公衆衛生—私たちにできること.南山堂. 日本集団災害医学会編修（2011）.DMAT 標準テキスト.へるす出版. 山本保博，鵜飼卓，杉本勝彦監修（2002）.災害医学.南山堂.
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、事前学習への取組みを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	事前課題がある場合、指定された期限までに LMS に提出する。
備考	非常勤講師の授業は 2 コマ運営。日程変更の可能性あり。

授業科目名	災害看護活動論Ⅱ Disaster Nursing Activity Theory Ⅱ	必修の区分	必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	前期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	田村 由美 小原 真理子	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスワーカー・場所	随時アポイントメント	連絡先	田村由美 y-tamura@redcross.ac.jp 小原真理子： ohara-ma@redcross.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害の種類やその特徴、災害による人々の生命や生活、地域社会への影響、国内外における災害関連の法制度/体制等の学びを通して、災害発生に伴う人々の生活環境の変化、心理的反応や健康ニーズの変化および看護の役割について理解を深める。また、看護の視点から被災地における救護活動、そして静穏期における防災・減災に関するチーム間、他組織等との連携システムについて具体的に学び、社会的システム/体制の必要性を理解する。 【到達目標】 ・災害サイクル、活動現場、被災者特性に伴う看護の役割について系統的に理解できる。 ・被災地における保健・医療・福祉、行政、他組織との連携について、看護リーダーの視点から理解できる。 ・看護の視点から病院防災・地域防災におけるリーダーの役割について理解できる。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 すでに有している災害看護活動に関する基礎的知識をさらに深め、特に、災害時の活動の鍵となるネットワーク・連携構築、多職種・多機関協働の実践的知識等の能力を養う。 【講義内容】 オムニバス方式 1) 災害の定義、災害の種類とその疾病構造の特徴、最近の国内外の災害発生とその背景(田村) 2) 災害看護とは、災害と災害看護に関する歴史と国の政策変遷(田村) 3) 危機管理、災害医療対応の構造と機能(田村) 4) 災害サイクルに伴う看護師の役割と、看護活動に必要な能力(田村) 5) 災害医療現場におけるインタープロフェッショナル・ワーク（多職種連携と協働）の重要性と“インタープロフェッショナル・コンピテンシー”（田村） 6) 災害時のチーム内・チーム間・部署間・他施設間・他組織間のインタープロフェッショナル・ワーク(田村) 7) 災害時のパブリック・ヘルス（Public Health）(田村) 8) 災害発生と災害情報、法との関連、人々は災害をどう認知するか（小原） 9) 災害が人々の生活に及ぼす影響、災害看護の対象者（小原） 10) 災害時要援護者の特性とケア（小原） 11) 被災病院におけるリーダー看護職の初期対応シミュレーション（小原） 12) 避難所生活上のアセスメント、入所時の要援護者対応シミュレーション（小原） 13) 避難所におけるパブリック・ヘルスの重要性と対応(小原) 14) 災害への備え ①病院防災上の他部署・他施設・他機関との連携と協働（小原）		

	15) 災害への備え ②地域防災上の産官学民との連携と協働(小原)
テキスト	特に指定せず、授業関連の資料を提示する。
参考文献	・WHO : 「Framework for Action on Inter Professional Education & Collaborative Practice」 2010 ・Royeen, C.B., Jensen G.M., Harvan R.A. : Leadership in Inter Professional Health Education and Practice, Jones and Bartlett Pub. 2009 ・Tener Goodwin Veenema Editor: Disaster Nursing and Emergency Preparedness 3rd Edition, Springer Publishing Company, 2013. ・Linda Young Landesmann :Public Health Managements of Disasters 2nd Edition: American Public Health Association, 2005. ・シリーズ 災害と社会第1巻～第8巻, 弘文堂, 2007. ・勝見敦・小原真理子編集: 災害救護―災害サイクルから考える看護実践、ヌーベル廣川, 2012.
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	映像多用、シミュレーション教育です。使える知識とスキルの習得を目指す。
備考	日頃から、災害について新聞やホームページ、TV等を通して、被害の大きさ、被災者、救護活動の実際について、情報収集を心がける。

授業科目名	災害看護活動論Ⅲ Disaster Nursing Activity Theory III	必修の区分	必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	講義	授業方法	遠隔授業
講師名	宮崎 美砂子 駒形 朋子	所属	千葉大学大学院看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	miyamisa@faculty.chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】災害時に中長期的な視野で対応すべき健康課題ニーズを明らかにし、活動体制を構築していく方法を学ぶ。 【到達目標】 ・コミュニティ単位にニーズを持続的に把握・分析する方法が理解できる ・必要とされる活動を連携協働、仕組み・施策化、コミュニティの健康文化創成につなげていく方法が理解できる ・災害時の健康課題に中長期的に対応するために必要なリーダーとしての役割について理解できる		
講義内容・授業計画	【ねらい】 災害時の健康ニーズを、コミュニティ単位に持続的に把握・分析し、管理的かつ体制的な側面から活動を計画し、推進・評価していく視点を養う。 【学習内容】（オムニバス方式／全15回） ● <u>1回目～4回目（宮崎美砂子）</u> 公衆衛生看護の理論を基盤に、コミュニティを単位とした看護活動の基本を講義する。それを通し地域アセスメント、ニーズ分析、活動計画立案、地域住民や関係者との連携協働、活動評価、施策化、地域の健康文化の創生の一連の活動過程を理解する。 （1回）コミュニティを単位とした看護活動の基本的な考え方及び方法 （2回）災害時における行政（国・都道府県・市町村）の対応体制と看護職の役割 （3回）災害時におけるコミュニティを単位とした活動体制構築の方法 （4回）災害時における活動の施策化、地域の健康文化の創成 <u>5回目～7回目（駒形朋子）</u> コミュニティを単位とした災害時の健康課題の捉え方を、疫学的な視点を用い、教授する。 （5回）疫学的視点を用いた災害時の情報収集、分析の方法 （6回）海外での災害対応事例（スマトラ沖地震津波後の感染症対策活動の事例等） （7回）国内での災害対応事例（岩手県陸前高田市での活動事例等） ● <u>8回目～15回目（宮崎美砂子、駒形朋子（共同））</u> 災害時の活動事例を用い、コミュニティを単位に中長期的な視野で捉えるべき健康ニーズを検討し、それらに対応するために、管理的かつ体制的な側面から活動体制を構築していく方法を検討する。8回～14回の授業回ごとに、事前準備（個人ワーク）、授業当日の討議・振り返りを行う。活動事例に含まれる健康ニーズの例示：「健康問題の地域偏在・健康格差」、「潜在化する健康ニーズ」、「被災者の自立支援とコミュニティ再生」、「支援者・関係者の疲弊」、「支援人材の持続的な確保と活用」、「外部支援者との連携に伴う倫理的問題」「災害経験の意味づけ・伝承」。15回は全体総括を行う。		
テキスト	ローレンス・W. グリーン、マーシャル・W. クロイター：実践ヘルスプロモーション—PRECEDE - PROCEED モデルによる企画と評価. Health Program Planning: An Educational and Ecological Approach 4thed.2005.（翻訳版、医学書院）		
参考文献	関西学院大学出版会 COE 災害復興制度研究会：災害復興－阪神・淡路大震災から10年. 関西学院大学出版会、2005. 國井修：災害時の公衆衛生 私たちにできること. 南山堂、2012		

成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、レポートを総合的に評価する。
履修上の注意・履修要件	
備考	

授業科目名	災害看護活動論演習Ⅰ Disaster Nursing SeminarⅠ	必修の区分	必修																																																																						
授業コード		開講年次	1																																																																						
単位数	2	期別	後期																																																																						
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業、一部集合授業（2/2）																																																																						
講師名	佐々木吉子 ¹⁾ 、大友康裕 ¹⁾ 、 三浦英恵 ¹⁾ 、小原真理子 ²⁾ 、 小井土雄一 ³⁾ 、石井美恵子 ³⁾ 、 5大学の教員	所属	1) 東京医科歯科大学 2) 日本赤十字看護大学 3) 非常勤講師																																																																						
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp																																																																						
講義目的及び到達目標	【講義目的】 国内での大規模自然災害、特殊災害について過去事例を分析し、成果や課題を整理するとともに、これらの発生を想定した仮想事例について、机上およびラボ・シミュレーションを行い、アセスメントならびに、被災地における医療救護、避難所設置・管理、看護支援活動について検討する。また、新たな看護援助や多職種連携、政策への提言について考察する。さらに、国内で、防災・減災対策が先進的に行なわれている専門機関を視察し、対策の実際や構築のプロセスについて学ぶ。 【到達目標】 1) 各種災害の急性期の医療対応の原則と、チーム医療活動における看護の役割がわかる。 2) 被災地における医療救護活動に必要な知識・技術を習得する。 3) 看護リーダーの視点で被災地内外の状況アセスメントができ、必要な支援内容（政策への提言を含む）について考察・提案できる。																																																																								
講義内容・授業計画	【ねらい】 災害超急性期から亜急性期における医療対応の原則を理解し、これまでの活動実績から災害医療活動において残存する問題を抽出し、看護に期待される役割と取り組むべき課題をアセスメントする能力を養う。 【学習内容】 ※12/8,15,22,1/19はⅤも授業、2/2は集合授業、10/6Ⅳと2/9,16,23は休講 <table><tr><th>回</th><th>日</th><th>限</th><th>担当者</th><th>内容</th></tr><tr><td>1</td><td>10/6</td><td>Ⅲ</td><td>佐々木・三浦</td><td>オリエンテーション、テーマ確認とプランニング</td></tr><tr><td>2</td><td>10/20</td><td>Ⅲ</td><td>佐々木・三浦</td><td>国内大規模災害における医療・看護活動の過去事例の分析より考察した医療・看護活動の概要と課題についてのプレゼンテーションとディスカッション ①大地震（都市型災害における特徴）</td></tr><tr><td>3</td><td></td><td>Ⅳ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同②大地震（地方型災害における特徴）</td></tr><tr><td>4</td><td>10/27</td><td>Ⅲ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同③台風・水害</td></tr><tr><td>5</td><td></td><td>Ⅳ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同④雪害</td></tr><tr><td>6</td><td>11/10</td><td>Ⅲ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑤交通災害</td></tr><tr><td>7</td><td></td><td>Ⅳ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑥列車事故</td></tr><tr><td>8</td><td>11/17</td><td>Ⅲ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑦大規模火災、ガス爆発・化学工場の爆発等</td></tr><tr><td>9</td><td></td><td>Ⅳ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑧特殊災害（殺傷事件、サリン事件等）</td></tr><tr><td>10</td><td>12/1</td><td>Ⅲ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑨環境汚染（大気汚染、PM2.5等）</td></tr><tr><td>11</td><td></td><td>Ⅳ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑩感染症（インフルエンザ、SARS等）</td></tr><tr><td>12</td><td></td><td>Ⅴ</td><td>佐々木・三浦</td><td>同⑪放射能汚染</td></tr><tr><td>13 14 15</td><td>12/8</td><td>Ⅲ Ⅳ Ⅴ</td><td>大友・佐々木 三浦 5大学教員</td><td>国内災害急性期における被災者対応について演習室でのシミュレーション学習 ① 大規模災害発生時に、被災しながら医療活動を担う医療施設での対応 （机上シミュレーション TV会議システム）</td></tr></table>			回	日	限	担当者	内容	1	10/6	Ⅲ	佐々木・三浦	オリエンテーション、テーマ確認とプランニング	2	10/20	Ⅲ	佐々木・三浦	国内大規模災害における医療・看護活動の過去事例の分析より考察した医療・看護活動の概要と課題についてのプレゼンテーションとディスカッション ①大地震（都市型災害における特徴）	3		Ⅳ	佐々木・三浦	同②大地震（地方型災害における特徴）	4	10/27	Ⅲ	佐々木・三浦	同③台風・水害	5		Ⅳ	佐々木・三浦	同④雪害	6	11/10	Ⅲ	佐々木・三浦	同⑤交通災害	7		Ⅳ	佐々木・三浦	同⑥列車事故	8	11/17	Ⅲ	佐々木・三浦	同⑦大規模火災、ガス爆発・化学工場の爆発等	9		Ⅳ	佐々木・三浦	同⑧特殊災害（殺傷事件、サリン事件等）	10	12/1	Ⅲ	佐々木・三浦	同⑨環境汚染（大気汚染、PM2.5等）	11		Ⅳ	佐々木・三浦	同⑩感染症（インフルエンザ、SARS等）	12		Ⅴ	佐々木・三浦	同⑪放射能汚染	13 14 15	12/8	Ⅲ Ⅳ Ⅴ	大友・佐々木 三浦 5大学教員	国内災害急性期における被災者対応について演習室でのシミュレーション学習 ① 大規模災害発生時に、被災しながら医療活動を担う医療施設での対応 （机上シミュレーション TV会議システム）
回	日	限	担当者	内容																																																																					
1	10/6	Ⅲ	佐々木・三浦	オリエンテーション、テーマ確認とプランニング																																																																					
2	10/20	Ⅲ	佐々木・三浦	国内大規模災害における医療・看護活動の過去事例の分析より考察した医療・看護活動の概要と課題についてのプレゼンテーションとディスカッション ①大地震（都市型災害における特徴）																																																																					
3		Ⅳ	佐々木・三浦	同②大地震（地方型災害における特徴）																																																																					
4	10/27	Ⅲ	佐々木・三浦	同③台風・水害																																																																					
5		Ⅳ	佐々木・三浦	同④雪害																																																																					
6	11/10	Ⅲ	佐々木・三浦	同⑤交通災害																																																																					
7		Ⅳ	佐々木・三浦	同⑥列車事故																																																																					
8	11/17	Ⅲ	佐々木・三浦	同⑦大規模火災、ガス爆発・化学工場の爆発等																																																																					
9		Ⅳ	佐々木・三浦	同⑧特殊災害（殺傷事件、サリン事件等）																																																																					
10	12/1	Ⅲ	佐々木・三浦	同⑨環境汚染（大気汚染、PM2.5等）																																																																					
11		Ⅳ	佐々木・三浦	同⑩感染症（インフルエンザ、SARS等）																																																																					
12		Ⅴ	佐々木・三浦	同⑪放射能汚染																																																																					
13 14 15	12/8	Ⅲ Ⅳ Ⅴ	大友・佐々木 三浦 5大学教員	国内災害急性期における被災者対応について演習室でのシミュレーション学習 ① 大規模災害発生時に、被災しながら医療活動を担う医療施設での対応 （机上シミュレーション TV会議システム）																																																																					

	回	日	限	担当者	内容
	16 17 18	12/15	Ⅲ Ⅳ Ⅴ	佐々木・三浦 5 大学教員	同②重症被災者への医療対応；二次トリアージ、急変対応、遠隔搬送に向けた支援ほか（シミュレーターおよび SimView 使用）
	19 20 21	12/22	Ⅲ Ⅳ Ⅴ	佐々木・三浦 5 大学教員	同③黒タッグ被災者および遺族への対応（模擬家族および SimView 使用）
	22 23 24	1/19	Ⅲ Ⅳ Ⅴ	小原・佐々木 三浦 5 大学教員	同④被災地における避難所開設と避難所における医療・看護活動のプランニング（日赤看護大学にて TV 会議システム使用）
	25 26	1/26	Ⅲ Ⅳ	石井・佐々木 三浦	同⑤国内災害急性期における看護活動のプランニングと実施・評価（机上シミュレーション TV 会議システム）
	27 28 29	2/2	Ⅱ Ⅲ Ⅳ	小井土・佐々木 三浦	大規模災害・特殊災害に備えた国内における防災・減災、発災急性期の医療対応・支援体制の実際 （国立病院機構災害医療センター〔東京都立川市〕にて集合授業；施設見学・講義・ディスカッション）
	30		Ⅴ	佐々木・三浦	まとめ 国内における防災・減災、発災急性期の医療対応・支援体制についての課題と考察 （外部施設もしくは東京医科歯科大学にて、ディスカッションとデブリーフィング）
	テキスト・文献		別途提示する。		
	成績評価		クラス参加度、プレゼンテーション、事前学習への取組みを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件		受講生のレディネスに応じて、事前課題（訓練を含む）を課す場合がある。			
備考		12/8,15,22,1/19 のシミュレーションは、3 箇所（高知、兵庫、東京）での実施を検討中。			

授業科目名	災害看護活動論演習Ⅱ Disaster Nursing Seminar Ⅱ	必修の区分	必修
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔授業、ならびに集合
講師名	山本あい子/増野園恵/小西美和子	所属	兵庫県立大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	a_yamamoto@cnas.u-hyogo.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】災害中・長期における被災者並びに被災地域の生活と健康状態の査定から始まり、個や地域に対して必要なケア提供を検討する。また平常時の医療機関や地域における災害への備えについて、行政や医療機関、住民組織、ボランティアグループ等との連携調整を学び、政策提言できる能力を養う。 【到達目標】 ①被災後の人々の健康状態を査定し、必要なケア提供の検討ができる。 ②被災後の仮設住宅における健康状態を査定し、必要なケア提供の検討ができる。 ③被災地域における健康状態を査定し、関連機関/団体との連携・調整を含めて、必要なケアの検討ができる。 ④災害への備え活動への参加を含めて、災害時の人々の健康維持に向けて、施策提言を考えることができる。		
講義内容・授業計画	【授業計画】 1 回 本科目に関するオリエンテーション 2-7 回 災害後の中・長期的な健康問題/課題と看護活動 2 回 災害と人々の反応と看護活動 3 回 災害と妊産褥婦 4 回 災害と子ども 5 回 災害と慢性疾患を持つ人々 6 回 災害とこころのケア 7 回 まとめ 8-9 回 過去に発生した災害事例を通じた災害後の人々の生活と健康状態に関する情報収集並びに査定 10-12 回 災害後の個の健康状態の査定と必要なケア（増野/小西） 13-14 回 災害後の仮設住宅における健康状態把握・査定・必要なケア 15-16 回 災害後の地域における健康状態の把握・査定・必要なケア 17-18 回 災害地域における関連機関/団体の把握ならびに調整 19-20 回 過去に発生した災害を例として、被災地の人々の生活と健康状態に関する情報収集、査定、必要なケアの検討 21-25 回 医療機関・地域・教育機関等における災害に対する備え活動への参加（医療機関、地域の防災訓練等） 26-29 回 被災地における生活と健康状態を踏まえた施策提言づくり 30 回 まとめ：施策の発表と討議		
テキスト	随時提示		
参考文献	随時提示		

成績評価	出席とレポート
履修上の注意・履修要件	医療機関等における災害に対する備え活動への参加は、本籍大学近くの機関等において実施する。
備考	

授業科目名	災害時専門職連携演習 (災害 IP 演習) Disaster Professional Collaboration Exercise (Disaster IP Exercise)	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	2	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	オリエンテーション:遠隔(10月 1-4回)情報収集・課題学習(10月 ー2月) グループワーク:集中対面(2015 年3月9日、10日、11日)
講師名	酒井郁子、近藤昭彦、岩崎寛、駒 形朋子、臼井いづみ	所属	千葉大学大学院看護学研究科、 千葉大学環境リモートセンシ ング研究センター、千葉大学園芸 学研究科
オフィス・場所	随時アポイントメント	連絡先	komatomo@chiba-u.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害の種類及び局面に応じた被災者中心の専門職連携を実践できる能力を獲得する。(共同・オムニバス方式/全30回) 【到達目標】 - 専門職連携に関する理論や知見をもとに災害の種類及び局面ごとに必要となるIPWの類型を理解できる。 - 災害時専門職連携を行う際に必要となる態度およびコミュニケーションスキルを理解し実際に行うための自己の課題を明らかにできる - 災害時に必要となる多機関との交渉、自組織の連携実践の構築、運営を行う力および評価・改善する能力を理解し、シミュレーションで実践できる		
講義内容・授業計画	【ねらい】 災害の種類や局面に応じ、PW (interprofessional work) が実践できるようになるための態度、知識、思考力、行動力を養う。発災から復旧・復興に至る時間軸の中で生じる様々な課題に対して、複数の専門分野の教員が協働指導のもと、複数の専門分野の大学院生がチームを組み、連携協働して成果を産出していく実践型授業により、専門職連携実践能力の向上をねらう。 【学習内容】 10月1-4回(担当:酒井郁子、駒形朋子、臼井いづみ) 演習オリエンテーション、ケースの説明およびグループ分けと分担の決定 課題提示および見学先決定のうえ、グループごとに課題学習計画を立案。 10月・2月 5-14回(担当:酒井郁子、近藤昭彦、岩崎寛、駒形朋子、臼井いづみ) A 災害準備期、B 発災時、C 復旧から復興期のそれぞれのケースについて、ハザードマップ等を含む多角的な情報の分析のために必要な情報収集を実際に行う。 2015年3月9日-11日 15-30回(担当:酒井郁子、近藤昭彦、岩崎寛、駒形朋子、臼井いづみ) 各グループが情報収集に基づき、方針決定、活動計画立案を行い、プレゼンテーションと討議、IPW に対するリフレクションを行い、教員からのフィードバックを受ける。これを通し災害支援時の自己のIP実践能力および所属組織やチームのIPパフォーマンス改善のための課題を明らかにする。		
テキスト			
参考文献			
成績評価	グループワークへの参加度(学習内容をもとに、積極的に議論に参加しチームメンバーと協働する)50%、プレゼンテーション(多職種チームで意見をまとめ、皆が理解できる表現・方法で発表する)30%、最終レポート20%		
履修上の注意・履修要件	専門職連携実践論(1年前期)を合わせて履修しておくことが望ましい。		
備考			

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習） A Independent Study A	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	セミナー及びフィールドワーク
講師名	神原咲子・中山洋子 野嶋佐由美	所属	高知県立大学
オフィスアワー・場所		連絡先	kanbara@cc.u-kochi.ac.jp
目的及び到達目標	【目的】災害看護学領域の現象を取りあげ、その現象に関連するこれまでに蓄積されてきている研究や情報を収集、分析し、それを活用して災害対策や減災計画を立てていくことができる基礎的な能力を修得する。 【到達目標】 1. とりあげた現象に関する情報や文献（資料を含む）を収集する方法を修得する。 2. 収集したこれまでの研究や情報の蓄積を分析する方法を修得する。 3. 分析した情報をどのように使って災害対策や減災計画を立てていくのか、そのプロセスを理解する。 4. 産官学の関連機関との連携のあり方、看護職の役割について理解する。 5. 実際のフィールドワークをと通してリーダーとしての役割について学ぶとともに、リーダーの役割が担える能力を養う。		
講義内容・授業計画	学生の関心ある現象を取り上げ、教員と目的・内容・展開方法等を相談し、計画する。演習は3人の教員が共同ですすめていくが、取り組むテーマによって主たる担当教員を学生と話し合って決める。 【演習のテーマの例】 ・地域の人々、家族、組織における減災計画の立案 ・脆弱性を有する人々の避難所での生活をサポートするシステムの構築 ・災害が人々の精神的健康に及ぼす影響の分析と支援システムの構築 ・災害における家族のレジリエンスと家族支援のあり方の検討 【学習内容】 1回：取り上げる災害状況の分析 2回～3回：情報・文献収集とその分析 4回～5回：フィールドワーク 7回～9回：災害対策や援助方法、減災計画の立案 9回～13回：フィールドワーク（産官学連携を含む） 14回～15回：学生が立案した災害対策や援助方法、減災計画の評価と看護職の役割についての検討		
テキスト	学生のテーマに合わせて適宜、提示する。		
参考文献	学生のテーマに合わせて適宜、提示する。		
成績評価	プレゼンテーション、レポート、フィールドワークの展開内容等を総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件			
備考			

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習）B Independent Study B	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面
講師名	片田範子/山本あい子	所属	兵庫県立大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	a_yamamoto@cnas.u-hyogo.ac.jp
授業目的及び到達目標	【講義目的】 この科目は、学生が情報収集・分析・統合する方法を含めて、研究に必要な学習を展開することを通して、災害看護領域でさらに深めたい領域を見出すことを目的としている。 【到達目標】 ①学生は、自己の関心領域における既存の知識を系統的に探究する方法、ならびに書籍/文献購読方法を学ぶ。 ②既存の知識を分析し統合する方法を学ぶ。 ③既存の知識の統合を行い、レポートとして記述する方法を学ぶ。		
授業内容・授業計画	本演習は、学生の関心のある現象をもとに、教員と目的・内容・展開方法等を相談し計画する。学生の関心領域に応じて、演習形態は文献検索・フィールドワーク・インターンシップ等を含める。学生は自己の関心現象に応じて教員を選択し、本演習を進める。 （片田範子）災害関連については主に倫理系並びに小児・家族に関連する現象であるが、方法論等については学生と討議し、選択の可否を検討する。 （山本あい子）災害に対する備え強化や災害時の健康課題（専門職・母性・住民等を対象として）、教育・訓練プログラムやケア方略の開発等を中心に行う。 【学習内容】 1-3 回 指導教員と相談しながら、学生の関心領域を明らかにし、演習の目的・内容・展開方法・レポート作成等を計画する。 4-8 回 文献検索から始まり、文献購読、文献統合を教員と共に行う。 9-14 回 関心領域の知見を分析・統合し、その結果を論述してまとめる。 15 回 まとめた内容を発表し、他の学生と建設的に討議する。		
テキスト	随時提示		
参考文献	学生の必要に応じ提示		
成績評価	全過程における課題に対する取り組み、ならびにレポート		
履修上の注意・履修要件			
備考			

授業科目名	インディペンデントスタディ（演習）C Independent Study C	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面授業
講師名	佐々木 吉子 三浦 英恵	所属	東京医科歯科大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	y-sasaki.dn@tmd.ac.jp
講義目的及び到達目標	【講義目的】 都市型災害に備えた防災・減災の現状について、過去事例や現在の整備状況进行分析し、医療提供や被災者受け入れが予想される施設・組織のニーズや課題について検討する。とくに発災時に災害医療拠点となる医療機関における防災・減災計画とその評価、課題に対する新たな提案について、専門家や関係者と議論しながら検討・考察し、災害看護グローバルリーダーとしての基礎的能力を養う。 【到達目標】 1) 過去事例における、被災地の災害拠点病院における災害対応、救援活動の構造・プロセス・アウトカムの分析ができ、災害拠点病院が被災しつつ、医療提供した病院での成果ならびに課題についてまとめることができる。 2) 大都市で災害拠点病院が被災した場合を想定した、新たな医療提供システム構築に向けた調整・交渉について、リソースを活用し、検討することができる。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 都市型災害の発災急性期における円滑な医療提供のために、発災前より災害看護グローバルリーダーが果たすことのできる役割について考察し、具体的提言を行うための基礎的能力を養う。 【学習内容】 第1回（佐々木・三浦）：オリエンテーション、テーマの確認とプランニング 第2～11回（佐々木・三浦）：情報収集と分析 ・国内外の都市型災害の過去事例の分析を行い、医療提供や被災者受け入れ施設のニーズや課題について整理する ・災害拠点病院の災害対策ワーキング会議等に参加し、組織における防災・減災への取り組みや多職種連携の実情を理解する ・大規模自然災害に対する、行政や中小医療機関等における備えの実情を把握する（大学近郊地域における視察・ヒアリング） ・情報の解釈や理解を深めるために、適宜専門家への相談を行う。 第12・13回（佐々木・三浦）：情報の統合とディスカッション ・情報を統合・考察し、ディスカッションを行う。 第14・15回（佐々木・三浦）：新たなシステム構築に向けた提言と情報発信 ・災害拠点病院である大学病院や関連組織への情報提供や提言、新たな医療提供システム構築に向けた計画・提案を行う。（学会等での発表を目指す）		
テキスト・文献	別途提示する		
成績評価	クラス参加度、プレゼンテーション、事前学習への取り組みを総合的に評価する。		
履修上の注意・履修要件	授業日時については、別途提示する		
備考			

授業科目名	インディペンデントスタディ (演習) D Independent Study D	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	対面・集合 (フィンランド)
講師名	岩崎弥生 駒形朋子	所属	千葉大学
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	komatomo@chiba-u.jp
授業目的及び到達目標	【目的】災害看護におけるヘルスケアサービスの提供・管理運営または災害看護の実践に関連して、災害看護の研究や情報を探究、分析、統合、体系化するスキルを身につける。また、災害看護について統合した知識をリーダーシップの視点から検討する。 【到達目標】 1) 災害看護の実践もしくは模擬演習をとおして得た経験を踏まえて、災害看護の実践に関する事象や情報を科学的に探究・分析・統合し、系統立ててまとめる。 2) 災害看護の実践についてグローバルリーダーシップの観点から検討する。		
授業内容・授業計画	【学習内容】 【1～4 回】指導教員と相談しながら、災害看護におけるヘルスケアサービスの提供・管理運営または災害看護の実践に関連して、演習の目的・内容・展開方法等を計画する。 計画：①演習の目的・目標、②計画のタイトルおよび概要、③演習内容、④目標達成の行程表、⑤中間報告およびスーパービジョン・軌道修正のスケジュール、⑥報告書の目次、⑦報告書の発表及び提出スケジュール、⑧自己学習の評価方法、⑨引用文献リスト 【5～9 回】教員は適時、文献検索、文献リストの作成、文献レビュー、情報の分析、情報の統合・系統、論文の作成等におけるスキルを指導する。 【10～14 回】学生は計画に基づき学習を進め、災害看護の実践に関する事象や情報を科学的に探究・分析・統合し、系統立てて報告書にまとめ、発表する。 【15 回】学生は、報告書で取り上げた災害看護の実践について、グローバルリーダーシップの観点から討議する。 【フィンランドでの宿泊演習について】 災害看護の実践経験がない学生については、8 月中旬フィンランドで開講される South Wales 大学 Disaster Healthcare 修士課程の Disaster Studies Summer School に 1 週間参加し、災害発生シナリオに沿って、スフィア・スタンダードに基づいた災害時ヘルスケアシミュレーションを行う。このプログラムは、ヨーロッパを中心とした多国籍、多職種の大学院生との宿泊演習であり、使用言語は英語である。 ・事前学習、オリエンテーション (駒形) ・演習からの学び・評価・討議 (駒形・岩崎)		
テキスト	The Sphere Project, Humanitarian Charter and Minimum Standards in Humanitarian Response		
参考文献	学生の必要に応じて紹介する。		
成績評価	学習目標に照らして、自己学習の準備、報告書、発表の内容を評価する。		
履修上の注意・履修要件	災害看護の実践経験がない学生については、8 月中旬フィンランドで宿泊演習に参加する。本科目を履修しない学生で宿泊演習参加の希望があれば、別途問合せください。		
備考			

授業科目名	インディペンデントスタディ(演習) E Independent Study E	必修の区分	選択
授業コード		開講年次	1
単位数	1	期別	後期
授業種別	演習	授業方法	遠隔（一部集合）
講師名	田村 由美 内木 美恵	所属	日本赤十字看護大学看護学研究科
オフィスアワー・場所	随時アポイントメント	連絡先	
講義目的及び到達目標	【講義目的】 災害看護グローバルリーダーに必要な能力（知識、スキル、態度）を養うために、災害看護におけるグローバルな重要課題を文献、フィールドワーク等から明らかにし、特に被災者の健康問題とケアのマネジメントについて探求する。 【到達目標】 過去の国内外の災害看護実践報告・研究等をグローバルリーダーの視点（コーディネーション、コラボレーション、ネゴシエーション、ポリシーメイキング等）から分析、検討することができる。（フィールドワークによる検討を含む）。		
講義内容・授業計画	【ねらい】 様々な組織・機関が公表している過去の災害看護実践報告や研究報告を、グローバルリーダーの視点で検討することを通して、課題を明確にし、予測される災害に備えて提案できる能力を養う。 【学習内容】 演習の目的、内容、展開方法は指導教授との相談し計画する。演習は、教授のスーパービジョンを受けながら進行する。 学生は、次の事柄について計画・実施する： ① 演習の目的設定（第1回～第2回） ② 対象とする災害報告書・研究論文等（動画や VTR・DVD 等も含む）（第3回～第5回） ③ 分析視点の設定（第6回～第7回） ④ 検討（この段階ではフィールドワークも含む）（第8回～第11回） ⑤ 分析、検討結果をプレゼンテーションする（第12回～第13回） ⑥ フレクティブ・アサイメント（小論文）（6000字程度）（第14回～第15回）		
テキスト	なし（随時授業で配布する）		
参考文献			
成績評価	プレゼンテーション、小論文を総合的に評価する		
履修上の注意・履修要件	映像を使用して検討を行うことが多い。災害看護の実践場面は刻々と変わるので、自己学習を含め積極的な参加を期待する		
備考			